

坂の上通信

平成三十一年一月二十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部(四〇三演習室)

開催 文総市

創意工夫あふれる発表

1月9日(水)から13日(日)まで、安佐南区民文化センターにおいて第31回広島市立高等学校総合文化祭(市総文)が開催された。各市立高等学校が

美術や書道など分野ごとに共同で展示を行ったほか、ステージでは吹奏楽部や演劇部などが、交代で練習の成果を披露した。

美高からは美術部ほ



演劇部の発表「独楽の花」

学校の「顔」に インタビュ―



今回は国語科の平澤先生にお話をうかがった。

―好きな教科、苦手な教科は何でしたか？
英語は好きでした。苦手な教科は理科。

―先生になったきっかけは？
家庭環境ですね。父も母も教師だったので先生になりました。

―趣味は何ですか？
ラリーカーで山道を

ドライブしたり、パソコン、ゴルフなども好きですね。

―マイブームは？
ペットの犬を可愛がることです。トイプードルの『まる』って言います。

―美高生に一言お願いします。
10年後の自分を想像して努力してください！

新聞文芸部は、文化祭同様に過去の坂の上通信を展示した。

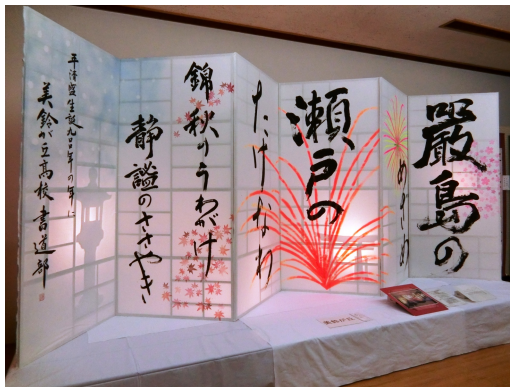
このほかにも、写真やインターネット、電気・環境設備など、美高にはない分野の他校の展示も行われており、注目を集めていた。

ステージ部門では、演劇部が「独楽の花」を上演。原爆投下から2年後の子どもたちを描いた作品だ。放送部は、部活動の歌リレーなど文化祭でも発表した映像作品を上映した。

吹奏楽部は、「セドナ」という吹奏楽曲と映画「グレイト・ショーマン」の二つを発表。また各校の吹奏楽部員で構成される合同バンドには、9名が参加した。

1階のロビーから各階の展示会場まで、全館で様々な作品が展示されていた。

書道部は、個人の作品のほか、文化祭でも展示された「厳島」をテーマにした合作がひときわ目を引いた。華道部は、初日に会場で作成した花の展示を行っていた。美術部も、個人の作品を多く展示していた。



展示作品(書道部(上)、華道部(左下)、美術部(右下))



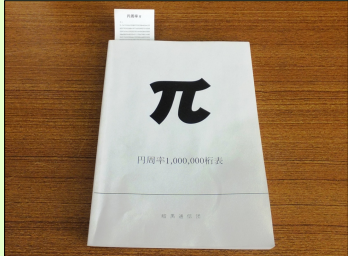
机の上の美術館

今回は数学科の水城先生の机の上を取材した。

先生が大事にしている物は学生時代の愛読書『πの本』だ。円周率が小数点第百万位まで記されており、数字がびっしりと刻まれている。3.14から始まるためか値段は31

4円で、発行元は暗黒通信団。

インパクトのある表紙にひかれ、好奇心が抑えられず購入したそう。高校生の時に、活字に読み疲れたらばんやりと眺めていたらしい。そのせいか、小数点百位までは覚えてしまったという。ただ



「π」文字が目を引く

「人生において役立った事は一度もありません」とコメントした。

新聞部 全国へ

12月16日(日)、広島県立西条農業高等学校で、各校の新聞部交流会が行われた。美高新聞文芸部も初参加。複数の高校の生徒で構成された班で、道の駅や近隣の農場へ取材に出かけ、取材活動を行った。午後からは西条農業高校に戻り、班ごとに取材の成果を新聞にまとめた。

この会では第3回県高等学校新聞コンクールの表彰も行われた。美高は優秀賞に選ばれたため、来年度7月末に行われる佐賀県での全国総文に参加する。



優秀賞の表彰を受ける新聞文芸部部長の中澤さん

美・鈴・鈴・鈴

校内でもインフルエンザが流行り始めた。新聞部員も罹患し、今号の発行がずいぶん遅れてしまった。

▼インフルエンザという名称は、16世紀のイタリアで名付けられた。冬になると毎年のように流行し、春を迎える頃になると終息することから、当時の占星術師らは「天体の運行や寒気などの影響によって発生する」と考え、この病名を「影響」を意味するイタリア語「インフルエンツァ」と名付けたという。

▼インフルエンザに罹患すると、完治するまで出席停止となる。それだけ強い感染力をもっているということだ。体内に1個のウィルスが入ると、24時間後には百万個近くまで増殖されるそう

だ。インフルエンザ治療は早めに飲まないこと効かないらしいが、これはウィルスの除去ではなく増殖を抑えることを目的としているためだ。

▼市立高校の中には、学年閉鎖になった学校もあるという。十分な予防を心がけたい。

(福田 紫乃)

編集後記

今年も市総文でも、文化系の部活動が大いに活躍した。これからも日々の努力を重ねてほしい。